

曾我流書札法式

和書門			
二	三	二	七
二	二	二	〇
四	四	四	〇
號	號	號	函
架	架	架	一
冊	冊	冊	〇

396

內閣文庫		
二	三	二
二	二	二
四	四	四
號	號	號
架	架	架
冊	冊	冊
函	函	函

內閣文庫	
番號	和 23224
冊數	10 (1)
函號	153 396



假名遣近道
淺草文庫

以呂波仁保人土

知利奴留遠和加

與太禮曾關祢奈

良武字為乃於久

也末計不已衣天

安左幾由女義之

惠比母世寸

音連聲耳相通

阿伊烏衣遠
口初二相通

可枳久計古 口一二三四五

左之須世楚 ハニヤ相通

多知津天都 舌上下二四相通

那尔奴祢乃 舌上三五相通

波比不邊保唇 横相通

摩弥牟 毛唇隣座切

夜伊由江與 喉平上舌入依
下字本座切

羅利留礼吕 喉古輕重
清濁依上字

和為干惠於喉 自音讓陀

宮高角徵羽

一端のへの字れ事五音相通

ふひへ と後字ハ首

へ 乃字のの

ふひへ朋友 トモナウ 結 カタラフ 偈 同

漂 タノヨウ 潤 ウツホフ 遠 タガフ

鳴 タノロフ 補 オキナフ 移 ウツホフ

誘 サヒ 護 ヘツラフ 失 ウシナフ

準 サシラフ 養育 ヤシナフ 跟 タムラフ

言 イハフ 誦 ウツラフ 行 オコナフ

伺 ウカガフ 諍 アワソフ 占 ウラナフ

濯 アハラフ 煩 ワツラフ 旬 ニホフ

けおへふくし書字の事

かへり更かきかき算

さへりさへり吠

こへりこへり踏

そへりそへり捕

一端のをし事

とへ教とへり行

とへりとへり及

とへりとへり愚

とへりとへり押

なちこちをなちこち蘇

なちをなち板折

とのれ己とのれ自

とのせ追風とのせ追年

日をと追日日をと小船

とへ海とへり小藤

をへ水をへり小車

との袖との袖小初敷

とへ山とへり小根

との里との里小倉山

とへまとへり小田

をくり小栗

かゝる胃緒

しよの琴

かゝる琵琶

たもの玉緒

うの舞

福ん念珠

けの祭

たのへ響

あを琴

今箱横

とつ言

いせ風

ひと人

水水

たの水

と言

と言

半字通小續音の字、皆端の
を凡に

一奥れたる事

なく遊

あて西

あつ旅

あ重

に恐

あ親

あ男

あ思

あ光

あ沖

あ翁

あ老

あ敵

あ言

あ大空

あ大船

あ大船

あ大船

山のおろし西寺

おほえ山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

おろし山大江山

本字津大尾生長折乃

字の落奥打たるの

字の落奥打たるの

一申乃久の事

やいゆえよ相海ぬふゆえを

海のれ路中折えたるを

見え見え

見え見え

見え見え

見え見え

こゝろさかろ 寒

こゝろさかろ 肥

こゝろさかろ 前

こゝろさかろ 後

こゝろさかろ 心

こゝろさかろ 心

こゝろさかろ 時

本字清乃字の清中のみさの

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 難

こゝろさかろ 難

本字妙極の字の字人形

一 奥の字の事

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

こゝろさかろ 白

けい本字清の字の奥の

こゝろさかろ 白

一 端の事

音にぞし字は皆端のいる

ないう、肉

ないう、細

ないう、毎

たいあ、胎

たいあ、大

なういけ、今

なういけ、礼

たいう、大

たいう、大

又讀み端のいをきり

おい 横糸 かいの志はく

是ハ一方よりソハ造るを造

けおよきに端のいあり

あり

一中乃の事

割は當の一方より造く

あり

あり

あり 位 なるあり 位 なるあり 位

ひい 額 ほの おがりの

あり 飯 やまあり 飯

あり 飯 あり 飯

あり 飯 あり 飯

あり 水雞

あり 水雞 あり 水雞

あり 齋 あり 齋

あり 水雞 あり 水雞

あり 水雞 あり 水雞

あり 水雞 あり 水雞

あり 水雞 あり 水雞

やまのゑ山

らゑてくら三井寺

ぬつゑ佛念

本字の后井意乃字の坊中れ

のまろし

一 日の字をよま

日我 日他 日分

日忘 日雅 日勢

日後 日日 日日

わ和 わ和 わ和

え之の山 ぬ姉の松

本字和倫乃字の坊中ら

一 音よらとらん字はおと

うしの坊不と不の

か不の歌 不不の不

あ不の不 不不の不

お不の不 不不の不

こ不の不 不不の不

通不の不 不不の不

い不の不 不不の不

さ不の不 不不の不

本字保帆の字は留る也

一う乃字考る

言ふうと由河川流るるの
そう傍 ほう通 ふう風 ふう杖
そう菘 かつ梅 ふう郷 ふう堂
よう用 せう志やう舟
たうちやう道場 ちやう寶鏡
こうたう因道 ふう因道

一生の字は書うとしるる

一せいりる

一あいらふ後身 志んふ志ん

もふ志ん かふ指せ

かふ州生 そふ蘭生

にふ山 丹山 せふ若し庫

嶺松 嶺松

一唇よりうと云ふは留じと

かくがふ

しのれ花梅花 じやれ木榎木

しよる海鳥羽 しま馬

通原風

むつゝの風

むつゝの風 サ刑棘抄

口をひらうぬうの字はむつゝの
る

一ひん字をそとじし事

かやひがれ 悲 あんれ 情

あられぬ 苦 くらしひら 苦

たふれ 責 たのひ

ふみ 樂

かえひのこし 新舊御抄

一音にむら字はふと事

法 ハフ 入 ニル 急 キツ 脇 テツ 立 リツ

雜 サツ 十 ジュウ 濕 シツ 及 キツ 合 カフ

甲 カフ 業 ゴウ 納 ナフ 汲 キツ 却 キツ

倒 タウ 塔 タク

一假名遣之辨用之事

思ハ神也思ハ思ハ用也
他準之

右一冊者一條律論御抄也

為右史者候石遣之
摺古堂之志未練之也
二の三執り行要也

天正十七

三月日平朝臣助兼

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 平朝臣助兼 and 三月日）

